

生協10の基本ケアニュース vol.6


ご利用様が自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、日常生活行為そのものをリハビリと捉えた自立支援を行っています。個々のケースに応じて「この利用者にとっての自立支援はどう考えるか」を日々話し合い、その方の想いに添った目標、それを実現するためのケアのあり方を「生協10の基本ケア」を通して共通理解を持つことで、統一したケアを実践しています。これまでの、取り組みを通して、ご家族様から頂いた声を紹介します。

目標1 トイレで排泄をする

目標2 家庭浴に入る

職員全員が抱えている想いを実現するため、まずは短期的な目標を話し合いをしました。

また自宅でも過ごしてもらいたい
みんなで入院前の状態に戻そう!



このまま自宅には戻れないかも...
心配されていました。

昨年夏、体調を崩し14日間の入院をされました。
退院後は身体機能が著しく低下し、遠方で暮らす娘さんも大変



輝くるべを長くご利用していただき、10の基本ケアの取り組みにいつも快く参加して下さいました方の事例を紹介いたします。




STEP3 入浴方法の学習・統一

まずは職員が不安無く安全に入浴していただく前に、職員が不安無く安全に介助できるように、浴槽の出入りの練習を行いました。



STEP2 肘無し椅子を使用

肘無しの椅子は、体幹と筋力のバランスを保つなどの効果があり、前かがみの姿勢づくりや筋力保持に重要です。しかし、転落のリスクもあり、職員間で転倒予防についても話し合い、挑戦することにしました。



STEP1 1日40回の座り替え

10の基本ケアでは「ふつ々の暮らし」を取り戻すことを目指しています。オムツをするのが「ふつう」ではなく、トイレへ行くのが「ふつう」の暮らしを考え、ポータブルトイレでの排泄に挑戦していくことにしました。オムツを辞めることで生活リハビリの機会も増え、椅子↓車いす移乗↓トイレ移乗↓着脱の流れを繰り返すことで下肢筋力を強化していきます。

その後、急な体調不良で再び入院され、そのままお亡くなりになりました。

最期を迎える直前までその方らしく過ごすことを輝くるべでお手伝いすることができ、職員にとってもとても貴重な経験をさせていただきました。この経験を活かし、これから自立支援に取り組んでいきます。

また自宅と一緒に過ごすことができるなんて
うちはいいねー

「自宅で過ごす」ことが実現でき、大変喜ばれました。

そして、ついに
県外の娘さんの帰省に合わせ、一度は諦めてしまった



取り組みを始めて2週間、下肢筋力・体幹が改善され、自分の体を支えることができるようになりました。

トイレでの排泄や浴槽での入浴ができるようになり、成果にご本人だけでなく、職員も達成感と輝くるべのケア方法に自信が持てるようになりました。



その他にもたくさんの声を頂いています!

- ・訪問に行ってもサービスを受けることに対する拒否が強い利用者さんでしたが、少しずつ通いサービスにも来ていただけるようになりました。ご家族の希望もあり、拒否無く入浴ができる関わり方を考え、送迎から始まり施設でもゆっくり職員が関わることで笑顔がみられるようになり、入浴をしていただくことができました。
- ・車椅子生活になり歩くことはもう無理かもしれないと思っていましたが、ゆとり～なに通ってからどんどん元気になり、立ち上がることができるようになりました。家でも手すりにつかまってトイレまで行けるようになりました。
- ・編み物を教えていただいて家でも夢中になって編んでいました。長い間編んでいなかったのが驚きました。

ご家族様より

6年4か月輝くるべを利用して最期まで母らしく過ごすことができました。
施設入所を考えた時期もありますが、変わらなくて良かった。
母は幸せでした。

